



先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/10/02

日本発の材料にも注目

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➔	なるか7年連続上昇 予想レンジ: 110.000-115.500円	2-3
カナダ/円	➔	追加利上げなるか、CPIに注目 予想レンジ: 88.000~92.700円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



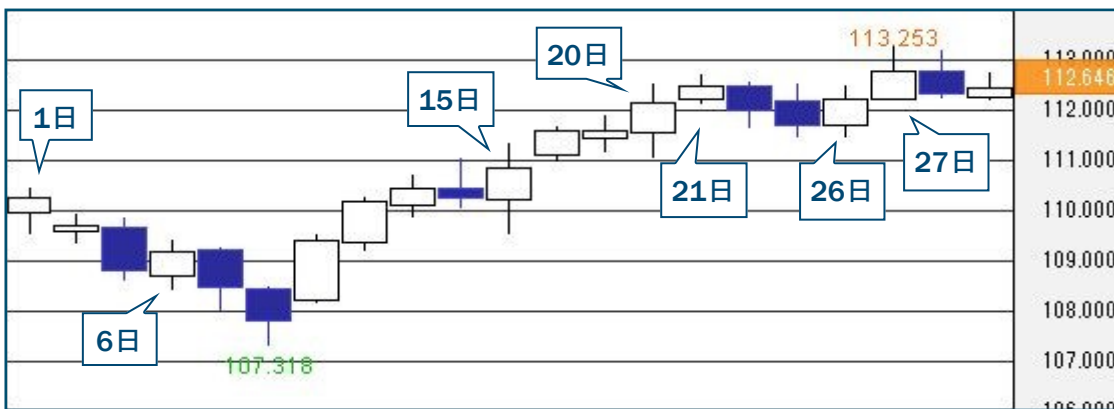
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 9月の推移

9月のドル/円相場は107.318～113.253円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(ドル高・円安)となった。8月末の「ハービー」に続き、大型ハリケーン「イルマ」が米南部に襲来した事や、北朝鮮の水爆実験(3日)などが重しとなり、8日には年初来安値を更新するなど、上旬は軟調に推移。しかし、中旬以降は日米の金融政策の温度差なども意識されて急速に上昇基調へと転換した。米と北朝鮮の「罵り合い」がエスカレートしたものの、徐々に円買いに振れる動きは小さくなった。下旬は、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加利上げに前向きな見方を示した事や、トランプ米政権と共和党指導部が税制改革の具体案を策定した事で米債利回りが上昇する中、ドル高・円安が進み、27日には約2カ月ぶりに113円台を回復した。



四本値	
OPEN	109.954
HIGH	113.253
LOW	107.318
CLOSE	112.461

1日	米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数15.6万人増(予想:18.0万人増)、失業率4.4%(同:4.3%)、平均時給前月比+0.1%(同:+0.2%)と、総じて冴えない結果であった。これを受けて一時ドル売りが強まったが、米長期金利の低下が一服すると買い戻しが入った。その後、米8月ISM製造業景況指数が58.8と、市場予想(56.5)を上回り、前回(56.3)から上昇すると、ドル買いが強まったが、米長期金利が伸び悩んだため、ドル買いも続かなかった。
6日	トランプ米大統領が「北朝鮮での軍事行動は第1の選択肢ではない」としたのに続き、「3カ月の債務上限延長で合意した」と発表すると、米長期金利が上昇するとともにドル買い・円売りが優勢となった。なお、債務上限については、トランプ大統領と議会指導部が、ハリケーン「ハービー」の救済に向けた短期歳出との抱合わせで12月15日までの引上げに合意した。
15日	小売売上高や鉱工業生産など、8月の米経済指標は軒並み市場予想を下回ったが、ハリケーン「ハービー」の影響による一時的な落ち込みに過ぎないとの見方が強く、ドル売りの反応は一時的であった。
20日	FOMCは、政策金利の据え置きと、バランスシート縮小の10月開始を予想通りに発表した。声明で「労働市場が引き締められ続け、経済活動が今年ここまで緩やかに拡大している」とした上で、「ハリケーンが中期的な経済の流れを変える可能性は低い」との見解を示した。同時に発表した経済・金利見通しでは、16人のメンバーのうち11人が年内の追加利上げを見込んでいる事が明らかとなった。これを受けてドル買いが強まるとドル/円は112円台に上伸した。その後、イエレン米FRB議長が会見で「景気回復は力強い軌道にある」「2017年の低インフレは、それが今後も続くことを意味しない」と述べてやや楽観的な見通しを示すとドルは一段高となった。
21日	日銀は金融政策決定会合を行い予想通りに政策の現状維持を決定。ただ、決定は全会一致ではなく、新任の片岡委員が「現在の金融緩和では不十分」として反対票を投じた事が明らかとなった。
26日	イエレンFRB議長が講演を行い、「予期せぬインフレ率の低下圧力は存在する」としながらも、「インフレ目標の2%に到達するまで据え置くのは賢明ではない」「緩和政策の長期化は金融の安定を損なう可能性がある」との見解を示した。
27日	トランプ米大統領が税制改革の具体案を公表。焦点のひとつであった法人税率は現行の35%から20%に引き下げるほか、個人所得税は最高税率を39.6%から35%に引き下げた上で、現在7段階に分かれている税率を12、25、35%の3段階に簡素化する、などが盛り込まれた。事前報道どおりの内容だった事もあって、一時ドルに「出尽くし売り」の動きも見られたが、米国株の持ち直しや米国債利回りの上昇を支えに下値は堅かった。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	1.3295%
HIGH	1.4947%
LOW	1.2499%
CLOSE	1.4827%

米10年債利回

OPEN	2.1257%
HIGH	2.3568%
LOW	2.0144%
CLOSE	2.3336%

日経平均

OPEN	19733.57
HIGH	20481.27
LOW	19239.52
CLOSE	20356.28

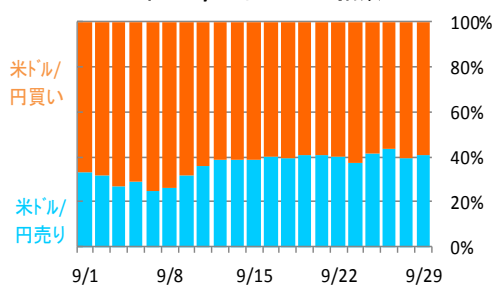
NYダウ平均

OPEN	21981.77
HIGH	22419.51
LOW	21709.63
CLOSE	22405.09

9月のポジション動向

10月の日・米注目イベント

米ドル/円ポジション指数



- ・日銀短観(2日)
- ・9月米ISM製造業景況指数(2日)
- ・9月米ADP全国雇用者数(4日)
- ・9月米ISM非製造業景況指数(4日)
- ・8月米貿易収支(5日)
- ・9月米雇用統計(6日)
- ・FOMC議事録(11日)
- ・9月米生産者物価指数(12日)
- ・G20財務相・中銀総裁会議(12-13日)
- ・9月米消費者物価指数(13日)
- ・9月米小売売上高(13日)
- ・9月米鉱工業生産(17日)
- ・9月日本貿易収支(19日)
- ・衆議院選挙(22日)
- ・9月米耐久財受注(25日)
- ・7-9月期米GDP・速報値(27日)
- ・9月日本消費者物価指数(27日)
- ・日銀金融政策決定会合(30-31日)
- ・10月米消費者信頼感指数(31日)

10月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

10月のドル/円相場は、昨年まで6年連続で上昇している(月足が陽線)。本邦機関投資家が下半期入りのタイミングで、いわゆる「外モノ投資」を増やす傾向があると考えられている事などが影響しているのだろう。そうした点も含めて、この10月は、日本発の材料がドル/円相場の値動きに影響する可能性がある。米国の経済指標にはハリケーンの影響という「ノイズ」が入る可能性が高く、手掛かりににくいという面もある。日本サイドで注目すべきイベントは10日に告示、22日に投開票される衆議院選挙と、30-31日に行われる日銀金融政策決定会合だ。衆院選は与党(自民・公明)が過半数を確保できるかが焦点であり、仮に政権交代となれば、アベノミクストレード(日本円売り・日本株買い)の手仕舞いによる円高・株安を招く恐れがある。現段階ではその可能性は低いと見られるが、今後は小池東京都知事率いる希望の党の支持率に関する世論調査の結果などにも注意を払っておきたい。一方、日銀金融政策決定会合では、9月会合で「金融緩和が不十分」として政策の現状維持に反対票を投じた片岡審議委員が追加緩和を提案する事も考えられる。追加緩和が採用される可能性は低いが、少なくとも「出口論」は封印される(との印象が強まる)公算が大きい。なお、米国サイドでは、米連邦準備制度理事会(FRB)の次期議長人事と、トランプ大統領の税制改革案を巡る議会審議が注目される事になりそうだ。(神田)

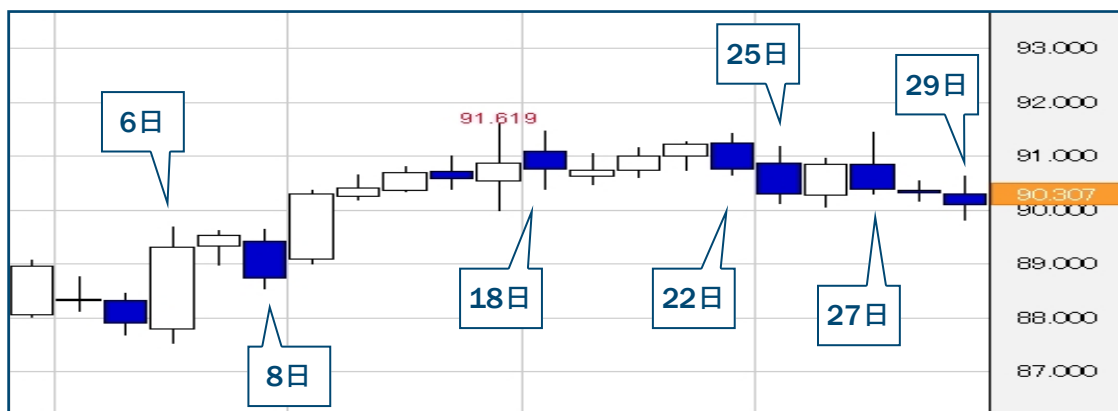
(予想レンジ:110.000-115.500円)

カナダ/円 9月の推移

9月のカナダ/円相場は87.551～91.619円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(カナダドル高・円安)となった。

加中銀(BOC)の予想外の利上げを受けてカナダドル買いが優勢となり、15日に2015年12月以来の高値となる91.60円台まで上昇した。

しかしその後は、米国と北朝鮮の間での緊張度合いが高まった事が重しとなった。そのほか、米連邦公開市場委員会(FOMC)での年内利上げ示唆により一般的にドル買いが進んだ(ドル/カナダ相場でのドル高・カナダドル安要因)事や、月末にポロズBOC総裁の発言が利上げ休止と解された事もあり、伸び悩んだ。



四本値	
OPEN	88.078
HIGH	91.619
LOW	87.551
CLOSE	90.117

6日	BOCが政策金利を0.25%利上げして1.00%にすると発表。声明は「下半期の成長は緩やかになる見込みも、国内総生産(GDP)の現水準は7月予想を上回っている」「消費支出は好調を維持し、雇用と賃金の伸びも堅調」「企業投資・輸出は一段と強くなっている」など、比較的タカ派の内容であった。市場予想は金利据え置きが大半であったが、予想外の結果を受けてカナダドル買いが強まった。
8日	北朝鮮の建国記念日(9日)を控えてリスク回避ムードがくすぶる中、日本株が下げ幅を拡大。ドル/円が昨年11月15日以来の108円台割れとなった事も合わせ、カナダ/円は軟調に推移。なお、加8月雇用統計は、失業率が6.2%(予想:6.3%)と2008年10月以来の低水準となった。就業者数が2.22万増と予想(1.50万人増)を上回ったほか、平均時給は前年比+1.7%と7月(+1.2%)を大きく上回ったが、カナダドル買いの動きは限定的であった。
18日	レーンBOC副総裁が「高水準な金利や加ドル高がもたらす影響を注視」などと発言。これに反応してカナダドル売りが強まると、カナダ/円は90.40円前後まで急落した。
22日	北朝鮮の李外相が「太平洋上で過去最大級の水爆実験」の可能性に言及した事を受け、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は下落。加7月小売売上高は、自動車を除いた売上高が前月比+0.2%と予想(+0.4%)を下回ったほか、6月分が下方修正(+0.7%→+0.4%)された。また、加8月消費者物価指数が前月比+0.1%、前年比+1.4%と予想(+0.2%、+1.5%)を下回った事も重しとなった。
25日	李北朝鮮外相が、トランプ米大統領の発言は北朝鮮に宣戦布告を行ったものであり、北朝鮮は米国の戦略爆撃機の撃墜を含め、あらゆる対抗手段を講ずる権利を有するとの考えを示した事が伝わると、米国株が下げ幅を拡大し、米長期金利が低下。安全資産とされる金やスイスフランとともに円が買われ、カナダ/円は急落した。
27日	ポロズBOC総裁が「中銀金利に予め決められた道筋はない」「次回の利上げは経済指標次第」などと発言。市場で利上げ休止と解され、カナダドル売りが強まった。
29日	加7月GDPは、前月比±0.0%と予想(+0.1%)や前回(+0.3%)を下回った。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.865%
HIGH	2.203%
LOW	1.852%
CLOSE	2.099%

N Y 原 油

OPEN	47.08
HIGH	52.86
LOW	46.56
CLOSE	51.67

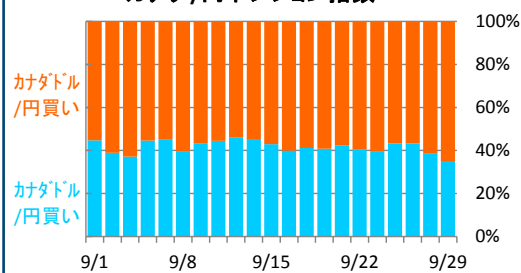
NYダウ平均

OPEN	21981.77
HIGH	22419.51
LOW	21709.63
CLOSE	22405.09

9月のポジション動向

10月のカナダの注目イベント

カナダ/円ポジション指数



- ・8月加貿易収支(5日)
- ・9月加雇用統計(6日)
- ・9月加Ivey購買部景況指数(6日)
- ・9月加住宅着工件数(10日)
- ・NAFTA再交渉(第4回、11~15日)
- ・G20財務相・中央銀行総裁会議(12~13日)
- ・8月加新築住宅価格指数(12日)
- ・9月加消費者物価指数(20日)
- ・8月加小売売上高(20日)
- ・BOC政策金利発表(25日)
- ・8月加GDP(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

10月の見通し

9月のカナダ/円は、BOCの利上げに続き、利上げ後にBOC要人から加ドル高をけん制する発言や追加利上げに慎重な発言が相次いだ。また、利上げ後に著名エコノミストからBOCのコミュニケーション不足を指摘(その後BOCが反論)されている。もっとも、本稿執筆時点では金利先物市場から見た年内の利上げ確率は60%となっており、追加利上げ期待の根強さが窺える。こうした中、今月は20日の9月消費者物価指数に注目したい。前年比では2カ月連続で上昇しており、前月(+1.4%)を上回る伸びとなれば追加利上げの思惑からカナダドルに買いが入る可能性がある。その他、BOC要人の発言にも引き続き注意が必要だろう。

テクニカル面では、9月引値が月足の一目均衡表で雲下限を突破した点に着目したい。これは引値で2016年2月に雲下限を割り込んでから始めてである。また、一時は直近高値を突破して2015年12月以来となる91円台に上昇しており、相場は上昇トレンドに入った可能性が高いと見る。もっとも、日足や週足は91円台半ばで伸び悩んでおり、一旦は調整が先行しやすいチャート形状であるが、日足の一目均衡表の基準線(執筆時89.031円)付近で下げ渋るようならば反発も早いと見る。その場合は先月の上値抵抗ゾーン(91円台半ば)突破が再び試されるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 88.000~92.700円)